

令和2年度 学校評価報告書（目標設定・**実施結果**）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月19日実施)	総合評価（3月31日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 国際教育を推進し、質の高い英語教育と多様な言語や文化を学ぶことにより、豊かな世界観を身に付け、国際社会の課題を認識し、問題解決能力を発揮してグローバルリーダーとして活躍できる人材の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科横断型のカリキュラムマネジメントを実践する。 ポストSGHとしての総合的な探究の時間のあり方を研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育目標を鑑みた継続的な授業改善を通して授業力を養う。 自他教科の授業見学及び研究授業の実践を多く取り入れる。 課題研究を通して、継続的に問題解決能力を身に付ける指導計画を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科または全体での振り返りで、授業改善がみられたか。 生徒による授業評価の結果で、充実した学びができたか。 課題研究活動を効率的に指導及び評価できる方法を作成できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 新カリキュラム実施に向け、振り返りと授業改善を行った。 87%の生徒が授業や学習について学びの成果を実感した。 事前に示したルーブリックに基づいて評価を行い、指導と評価の一体化を実践した。 	<ul style="list-style-type: none"> 新カリキュラムの先行実施等の取組をより一層充実させる。 コロナの影響で他者の考えを知る等の項目に課題があった。ICT活用等で共有機会を増やしたい。 形成的評価として年度途中での評価を行えると、より具体的な指導の実践につながる。 	<p>【学校運営協議会委員】</p> <p>○87%が多いか少ないかは簡単には判断できないが、それだけの生徒が学びの成果を実感していることは大変すばらしい成果ではないかと思う。</p> <p>○コロナ禍の影響で対面授業が減ってきてはどうか、ICTの活用も必要だが顔を突き合わせての授業およびコミュニケーションがとても大切だと思う。</p> <p>○ルーブリックに基づいた評価もこれから大切になるでしょう。生徒にはどのように伝えるか興味がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマネジメントの一環として、各教科で授業実践や現在の課題を共有する機会を設けたことで、新カリキュラム実施に向けた準備をすすめることができた。 生徒による授業評価の結果分析を各教科の課題把握に生かしながら、継続して授業改善に取り組んでいく必要がある。 コロナ禍でさまざまな制約がある中、ICTを有効に活用しながら対話的な学びを継続させることができた。各授業において生徒の思考力や表現力を伸ばすことができた。 総合的な探究の時間については、体制および内容ともに、今後も継続的な議論が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による授業評価について、結果分析を全体で共有し、各教科で授業改善に向けて協議する機会を設ける。 自他教科の授業見学及び公開研究授業等を活かし、実践を共有・協議する機会を設ける。 総合的な探究の時間について、生徒の課題研究活動を適切に支援できる体制を構築し、指導計画の立案、検証、改善を図る必要がある。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 多様で柔軟な生徒支援体制及び相談体制の確立を図り、規範意識を身に付けさせるとともに、生徒の自己理解と相互理解を深めるきめ細かな指導・支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒を取り巻く個別・全体的な状況の把握に努めるとともに、生徒・保護者が相談しやすい教育相談体制の整備や情報提供に努める。 生徒の規範意識を醸成するとともに、望ましい相互コミュニケーションの在り方を考えさせる指導を行う。 自主自立につながる生徒支援体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年次との連携・情報交換を行い、生徒状況の把握に努める。 教育相談やこころの悩みの相談についての情報提供を適切に行う。 インターネット上のコミュニケーションツールの適切な活用と、他者の人権への配慮を指導する。 生徒の自主的な活動が、組織全体で運営されるよう、必要な指導助言を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の行動の状況や変容、個別相談事案に対して適切に対応できたか。（振り返り） 教員が時代の流れに応じたコミュニケーションツールの活用について理解し、生徒に指導助言を行うことができるか。（振り返り） 生徒の活動の状況について、グループ・年次等必要な単位で指導・助言・学校全体との調整を行うことができるか。（振り返り） 	<ul style="list-style-type: none"> 担任や年次と生活支援グループで密に連絡を取りながら、厳しい家庭環境にある生徒や悩みを抱える生徒に寄り添うことができた。 生徒用プリントを作成し、心身の悩みを相談できる機関についての情報提供を行った。 各教員が、ICT機器を活用した授業、委員会活動、部活動等において、コミュニケーションツールの活用法やオンライン上での他者の権利の尊重について生徒を指導した。 全クラス参加の「動画コンテスト」の実施を生徒委員会が中心となって企画し、実現できた。これによりクラス内の団結や全校生徒の交流が深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が安心して過ごせる教育活動の実施を念頭に、引き続き生徒の様子について密に情報交換を行うとともに、生徒の活動の支援や相談体制等の整備に取り組みたい。 生徒同士が広く対話を行い、集合して行事を実施する機会については設定が難しい状況ではあるが、生徒が互いにコミュニケーションを行うことによって身につけられる、他者を理解し思いやる力等の育成に向けて、今後も生徒のアイデアをもとに、年次・グループ等のさまざまな組織で知恵を出し合い、実現に向けて生徒を支援していきたい。 	<p>【学校運営協議会委員】</p> <p>○人間として一番大事な他者を思いやる力をつけるために、いろいろなボランティア活動に参加されていると思う。このような状況下で難しいところもあるが、是非勉強だけではなくこのような活動などにも積極的に参加してもらいたい。また、学校もこうした取組にも力を入れてほしい。</p> <p>○国際バカロレアコースが順調なスタートを切り、国際科の生徒との融和も良好とのことうれしく感じている。</p> <p>○生徒の自主的な活動を支援するために、「動画コンテスト」の実施など学校は様々な努力をしていると思う。</p> <p>【産業医】</p> <p>○コロナ禍が今後も続くことで、ストレスを抱える生徒が増えてくると思う。こころのケアをしっかりとりとれる体制づくりが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、コロナ禍の中で生徒の安全を第一に考えつつ、手探りで短期的な活動を実施するにとどまり、生徒の活動を長期にわたって継続的に指導、支援することが難しい状況であった。来年度についても、校内にて対面で実施できる行事については検討中である。 来年度の校内行事の実施については、コロナの感染状況を注視する一方で、今後の社会の変容を見据えつつ、どのような状況であっても実施可能な、感染対策を含めた活動計画の立案と実施を生徒とともに考えていく必要がある。 同時に、長期化するコロナ感染流行の状況の中で、マスクをして距離を取ったコミュニケーションが続くことが生徒に長期的に与える影響についても注意を払い、生徒の心理面のケアやサポートについても可能な限りの対策を講じていくことが大切になると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事等への参加については、校外で行われるさまざまな学習機会、ボランティア活動、大会等への参加についても積極的に広報し、そのような機会を契機として、生徒が自ら考え、行動し、振り返りを行う体験を積み重ねることができるようサポートを行っていききたい。 国際バカロレアコースについては、来年度から1年次～3年次の生徒が揃うこととなる。国際科の生徒との年次内での横のつながりだけでなく、国際バカロレアコース内での縦のつながりについてもサポートしていくことで、生徒が国際バカロレアコースのハードなプログラムを乗り越えていくことができるような交流の枠組みを提供していきたい。 引き続き、生徒の校内での様子や家庭環境の変化等の状況を校内で連携しながら注視し、生徒の生活をさまざまな側面からサポートできるような体制の整備に努めたい。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月19日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 海外を視野に入れた各生徒の進路希望を把握し、その実現に向け、学習意欲を高め、幅広い学力の習得と定着を図るための授業実践に取り組む。 生きる力の育成を目指し、自主的に将来の進路や職業について深く学び、人生設計ができる資質能力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自らが学力を把握し、目標設定ができるように指導する。 教育活動におけるICTの活用を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校外で実施する各種説明会や模擬試験などを通じて、学力の充実に向けて主体的に取り組むことができるよう定期的に働きかけを行う。 生徒一人ひとりがICT機器を活用して、高大接続改革や大学入試改革、海外進学など必要となる情報を主体的に入手、活用できるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンスルームやチューター制など、さまざまなガイダンス機能を生徒自身が積極的に活用しているか。 各種説明会や模擬試験の意義を理解し、生徒自身が事前に目標を設定し、意欲的に取り組むことができているか。 大学が掲げるポリシーや学部・学科の特徴やキャリア目標を把握し、生徒自身のキャリア意識と結びつけることができているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テストなど新入試制度が始まるなか、コロナ感染症対策との関係から各種説明会や模擬試験等キャリア行事を計画的に実施することが難しい状況が続いた。校外の各種イベントなども軒並みオンライン化されるなど厳しい状況があった。ICT機器などを積極的に活用しつつ、あらゆる手段を駆使して最新の情報を提供し、生徒一人ひとりの進路希望の実現に向けて、継続支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度についてもこうした状況が一定程度続くことから、引き続きICT機器の活用を進めてより正確な情報提供に努める一方、コロナ禍で精神的に不安感を抱える生徒に対応するため、相談活動や各種ガイダンスの機会を確保したい。 さらに国際バカロレアコース生の進路実現に向けて、より具体的なキャリア支援プログラムの確立に努めたい。 	<p>【学校運営協議会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○受験制度が目まぐるしく変わってしまい、進路指導も今までとは違い苦労されたと思う。これまでの成果を踏まえ、生徒一人ひとりの進路実現をサポートしてもらいたい。 ○来年度はいよいよ国際バカロレアコースの生徒が卒業するが、進路状況を楽しみにしている。 ○文面からコロナ禍で十分な取組ができないジレンマを感じた。「あらゆる手段を駆使して最新の情報を提供し、生徒一人ひとりの進路希望の実現に向けて、継続支援を行った」というところに学校の努力を感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスの感染状況に応じて、各種ガイダンスの実施形態を変更した。オンラインによる指導の弱点を補うべく、様々な手法を組み合わせて、きめ細やかな指導の徹底に努めた。また、各大学が掲げる入試制度の大幅な変更点や入学試験におけるコロナ感染対策状況などに関する正確な情報提供を通じて不安感を除去し、生徒の意識を高めるなど、一定の成果を得た。 ・国際バカロレアコースの生徒に対するキャリア支援体制の確立をめざして、グループ業務体制の見直しを図り、次年度から始まる本格的な活動に向けての準備をすすめた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスの感染に関して終息の見通しが見えない中、今後も柔軟な対応が求められる。また、各大学の入試改革がますます加速することも予想され、生徒に対する支援体制のさらなる充実が求められている。 ・国際バカロレアコース1期生のキャリア意識を高めるとともに、カレッジ・カウンセラーを活用したキャリア支援体制や海外進学支援体制の確立が求められている。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・社会奉仕と環境問題について重点的に取り組み、生徒が主体的に関わりながら、地域に開かれた学校づくりを行うとともに、地域貢献・国際貢献ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティースクールの機能を活用し、積極的に地域の人々との交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会と連携した防災訓練を通じて、災害時における地域貢献への意識を醸成する。 ・アジアスポーツフェスタを通じて、国際貢献への意識を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒地域連携委員会を中心に防災訓練、およびアジアスポーツフェスタの振り返りを行い、地域貢献・国際貢献への意識を醸成することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山王台西自治会主催の防災訓練、およびアジアスポーツフェスタの中止に伴い、地域の人々との交流を図ることができなかった。 ・SDGsの講演会を通じて、環境問題に関する意識を醸成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT等を活用して、対面しない形式で地域の人々や海外につながるのがある人々との交流を図り、地域貢献・国際貢献への意識を醸成したい。 	<p>【学校運営協議会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍のためなかなか思い通りの活動ができなくなってしまったことと察しますが、その中でもご指導されている先生方のご尽力に感謝している。 ○対面での活動が広がれば、地域との協働や連携は進むと思う。地域との良好な関係は、良い伝統だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインによるSDGsの講演会を通じて、環境問題に関する意識を醸成することができた一方で、山王台西自治会主催の防災訓練、およびアジアスポーツフェスタの中止に伴い、地域の人々との交流を図ることができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も対面での行事の実施が難しい状況が見込まれるが、ICT等を活用して、対面しない形式で地域の人々や海外につながるのがある人々との交流を図り、地域貢献・国際貢献への意識を醸成したい。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークライフバランスに配慮した教員の働き方改革を推進する。生徒の安全のために教育環境を整備し、併せて事故・不祥事防止に努める。 ・生徒の安全のために教育環境を整備し、併せて事故・不祥事防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が自らワークライフバランスを意識する仕組みを構築する。 ・新館の使用開始に伴い、各施設や移動通路の安全性を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回は会議の無い日を設定し、業務の負担を軽減する。 ・タブレット端末の利用を促進するとともに適切な使用を進めていく。 ・新館に必要な物品を整備し、必要な使用規定を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生委員会の助言をもとに、具体的な改善策を実行できたか。 ・タブレット端末の利用簿で活用状況を把握し、改善につなげられたか。 ・環境委員会の美化活動について、その活性化に寄与できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生委員会からの指導内容を職員に伝えることができた。 ・タブレット端末の活用について、利用簿をコンピュータに入れ込むことで、より使いやすくなることのできた。 ・美化活動の一環として校内のモップ掛けを新たに追加し、効果をあげた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が収束に向かうことを願うとともに、感染状況に応じた対策を効果的に行っていききたい。 ・来年度もタブレット端末が増設されるので、より使いやすくなるシステムを改善していく。 ・日頃の清掃活動も含めて、生徒と職員との美化意識を向上させていきたい。 	<p>【学校運営協議会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いつも心配になっているのが、先生方の過労である。コロナの影響で消費業務が増えているなか、なんとか時間の余裕をもてるようになればと常々思っており、良い策はないのだろうか。 【産業医】 ○ストレスを抱えないために業務改善や相談窓口などの紹介を積極的に行っていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策として網戸の設置、大型換気扇や冷風装置、パーテーションの購入をしたが、クラスターの発生がなかったことから、効果を挙げたと考えている。 ・ICTを活用して授業を上手に展開できる教員が増え、タブレット端末が有効に使われていると評価できる。さらに、利用しやすい環境を整えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は、高性能の空気清浄機を設置することで感染を抑制していきたい。ただし、国からの予算がどの程度つかかわからないことが不安材料である。 ・ICT利用に係る講習会など、機会が持てたら企画していきたい。難しいようであれば、マニュアルなどを読みやすいものに更新していきたい。